

ひとを育てる活動

—チボリの子ども支援—

里子たちの現況報告が届きました — SCMSI 校関係 —

9月20日に、里子や奨学生の現況報告が届きました。

前年度の成績(75点以上が合格)、直近の写真、担任のコメント等の他に、里子自筆の手紙が添えられています。その内容は、支援への感謝と、4、5月の夏休み中にしたこと(畑仕事や家事、弟妹の世話などで父母を助けた等)、将来は教師になりたいというような卒業後の進路、等です。そのうち、3例ほど、紹介させていただきます。



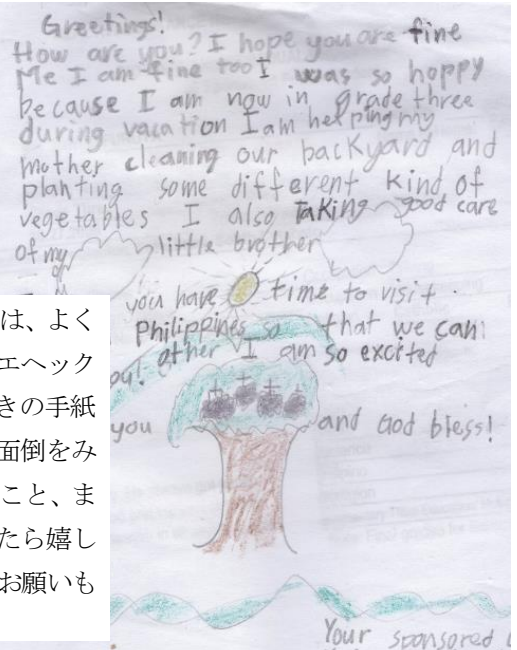
まずはご支援に感謝申し上げます。昨年1年生の時は各種学校行事に参加し、また、全ての科目でもよい成績を残せました。

夏休み中は、母親に戻って、新学期を迎える2人の子どもの勉強を見てやりました。(マリア・ルスより)

ハイスクール卒業後結婚。2児の母となりながら、カレッジ進学の夢を捨てられなかったマリア・ルス。2014年3月に現地を訪問した元里親上杉清治さんのご協力で、学業を再開できました。まだ22歳で、他の学生と年齢差は大きくないですが、担任のコメントには、学内でお母さんとして頼られています、とありました。



ザイファー・デオは、よく働き、よく学ぶレムエヘック小の3年生。鉛筆書きの手紙には、夏休みに弟の面倒をみたり、畑を手伝ったこと、また、遊びに来てくれたら嬉しい!という里親へのお願いも書いてあります。



「授業以外各種活動に積極的に参加していて自慢して良い里子です」という担任のコメントに添えて、ミッカ・エラ(ハイスクール3年)本人自筆の手紙には、夏休みは祖母の作ったハンディクラフトをダバオで売るのを手伝ったとありました。

後期授業には間に合いそうです

—カレッジ教室整備事業—

天井、間仕切りの板壁、外部と遮断する鉄製格子窓などからなるカレッジ教室整備は少し遅れましたが、電気系統の作業と溶接工による格子窓の仕上げを残すのみで、11月初めの後期授業開始には間に合いそうです。(岡山氏寄附事業)

レムルナイ(SCMSI 創立54周年記念祭) 写真報告



9/17-18に開かれた創立記念日には、カレッジから小学校まで6校2,430人がメインセンターに集い、レイクセブ町役場や、近隣のミッション校、ノートルダム・マーベル大学の代表の参列も得て、チボリダンスやスポーツ大会で盛り上がりました。

(写真) それぞれ校旗を掲げて会場に向かう左から、ベネフ小、ラヒット小、レムエヘック・ハイスクールの児童、生徒

ガンダム学長のレムルナイ報告より

2日間にわたる創立祭はつつがなく終わりました。子どもたち、教師、父母も大きな感動を味わったことと思います。協力校であるノートルダム・マーベル大学 NDMU やジェネラルサントス大学 NDDU には資金面で支えてもらいました。

なお、両大学は創立祭だけでなく、SCMSIカレッジ教師に必要な修士課程修了、大学院奨学金でも協力してくれています。支給条件は、資格取得後2年間のSCMSI校勤務です。